

わかやま VOL.16 2012.12.27 景観・まちづくり新聞

発行： NPO 法人 市民のわかやま
監修： 和歌山県 県土整備部
都市住宅局 都市政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通 1-1
TEL： 073-441-3228
FAX： 073-441-3232
E-Mail： e0809001@pref.wakayama.lg.jp
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080900/

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください！

和歌山市景観計画 和歌山の浦景観重点地区(案)について

和歌山市の景観政策を担当している都市整備課に、来年度に予定されている「和歌山の浦景観重点地区(案)」の指定について伺いました。

1. 概要

和歌山市では、良好な景観の形成を図るため、平成23年7月に「和歌山市景観条例」を制定、同年9月に市内全域を対象とした「景観計画」を策定し、同年12月から、良好な景観の形成の実現を目指すための景観誘導を行っています。
和歌山の浦(雑賀崎・田野・和歌浦地区)の景観は、市民アンケート(街頭・郵送)でも、「お気に入りの場所・景観資源」として、「和歌山城周辺」と並び、圧倒的な支持を集めたことから、昔と変わらず多くの市民に愛される景観の象徴であります。

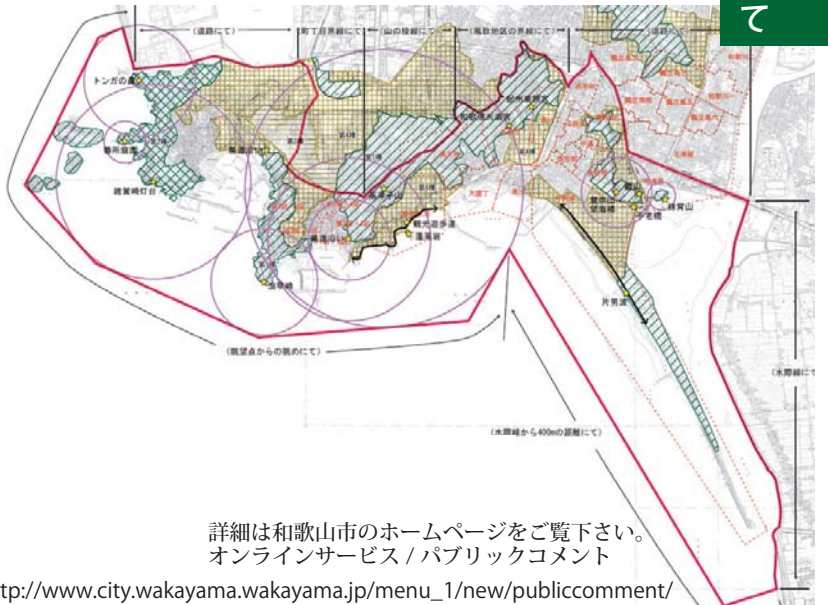
そのため、「和歌山の浦」を景観重点地区に指定するため、平成24年1月から同年7月までの間、地元連合自治会・活動団体・公募市民等で、景観まちづくりのあり方について意見交換を行う「景観まちづくりワークショップ」を開催し、地域住民の皆様方と協働で取り組みを行い様々な意見を吸い上げるとともに、有識者(景観審議会委員)などからもご意見を伺い、それらを基に、今年度中に「和歌山市景観計画―和歌山の浦景観重点地区―」を指定する予定です。



奠供山から片男波方面



雑賀崎



詳細は和歌山市のホームページをご覧ください。
オンラインサービス/パブリックコメント

http://www.city.wakayama.wakayama.jp/menu_1/new/publiccomment/

2. 今後のスケジュール

- (1) 平成24年12月11日から平成25年1月9日まで「パブリックコメント」を実施。
- (2) 平成25年1月24日(木)「公聴会」開催
- (3) 平成25年2月都市計画審議会及び景観審議会にて審議を予定。
- (4) 平成25年3月末

和歌山の浦景観重点地区指定(告示)※予定

※実際の規制は、平成25年夏頃から予定しています。
※また、地区指定後は、地域内での景観まちづくり活動が活発になるよう、行政としてもできる限りの支援をしていく予定です。

「和歌山市のまちなか再生」その三

「まちなかが寂れた！」といっても、閉める店ばかりではありません。新しく開店する店がそこそこに見られます。この意味で「和歌山市」は、まだ捨てたものではありません。しかし、開店する場所も方針もバラバラで、人通りが殆どない場所で孤軍奮闘して、その内消えていく店が多いのです。この流れから脱却する必要があります。

賑わいがまちなかや全ての商店街から消えた今、「まちなか再生」のためには、難しいことですが、改めて「新しく賑わうまちなかを創り出す」必要があります。

歩いて賑わうまちなかができてくるイメージは、まず第一に「人と情報が集まる賑わいの中心核」を創って、その周りに「魅力的なモノやサービスを提供する店」が次々に開店し集積していく、新しい中心地が形成されるイメージです。そしてその場所は、誰もが納得する和歌山市を代表する場所、かつ市民が出店などの賑わうまちなかづくりに参加出来る場所でもあることが重要です。その場所は「和歌山城」しかありません。しかし、今のままでは市民が参加して賑わうまちなかにしていくことが出来ない

ので、元城内であった市堀川と和歌山城の間まを「大和歌山城」と考え、新たな賑わうまちなかを創り出します。そして、和歌山市を「大和歌山城」を中心とする「コンパクトシティ」に再編していく長期ビジョン「大和歌山城構想」を提案したいと思います。

その中心核は、「伏虎中学校跡&けやき大通り(コミュニティ道路化↓道路廃止)」とし、まず「和歌山城と市街地の一体化」から進め、和歌山県の特産品販売店を集積させて、和歌山城の観光客約600万人が城外へ踏み出す「仕掛け」を創り、賑わうまちなかづくりの第一歩を踏み出したいと思えます。

(次号へ続く)



まちづくり講演会レポート(11月8日 田辺市)

先日、和歌山県都市計画協会との共催で、東京大学の堀繁教授をお招きし

「まちの魅力と公共整備」

「誰もが行ってみたいと思う中心市街地を目指して」

というテーマで田辺市において講演会を開催しました。

堀先生による講演会は、和歌山市で7月に開催したものに続いて二回目です。前回は、講演のみでしたが、今回は、講演に加えて田辺市の中心市街地の「まちあるき」も実施しました。

堀先生は、森林風致計画学研究室のご出身で、景観デザイン、景観工学、計画設計思想史、地域計画を専門とされ、国土審議会、歴史的風土審議会等の委員も歴任されています。また、山形県や長野市などのまちづくりアドバイザーもされ、とても分かりやすい講演内容で、全国を飛び回り、忙しい日々を過ごされているそうです。

前半の講演会では、二枚の写真を提示され、「どちらが行ってみたいところか?」という質問を会場に投げかけ、多くの方が行きたいと答えた写真がなぜ、そこにいったきました。

堀先生の理論では、「街は、道路と沿道の建物で構成されていて、

人間は近くのものをより過大に評価する。

そのため、街を訪れた人は、どのような道かを重視し、そこに来街者を温かく『おもてなし』したいという『ホスピタリティ表現』がなければ、どんなに立派な道を作っても、街全体が評価されないということなのです。

そのため、公共が行う『道の整備』が、街にぎわいを生むか、沿道の商業施設が繁盛するかの決定的な要因となると指摘されています。

例えば、歩行者が座ってみたいと思われようなきちんと工夫したベンチを、できるだけ多く道に設置することが来街者を増やす鍵であり、座る方が、さらににぎわいと呼ぶ「サクラ」になつてくれるそうです。

沿道の建物(特に商店)の店構えの作り方にも言及されています。『儲かる店づくり』をするためには、3つの要素が重要で、

- ・ 挨拶の装置(こんにちは)
 - ・ 迎客の装置(いらっしゃいませ)
 - ・ 集客の装置(買ってってください)
- を適切に配置しないといけないそうです。

- ① 挨拶の装置とは、植物。
- ② 迎客の装置とは、ベンチ・照明・木のドア・のれん



ふるさとフォトグラファー

9・10・11月の入選作品より



9月テーマ投稿：月のある風景

「十六夜月(いざよい)を求めて」たきさん 1643

入賞作品へのコメント

雲の間の白い月とピンク色の和歌山城がとても幻想的です。二つが対になっているようで、目を惹きました。

「きのくに風景讃歌」の「ふるさとフォトグラファー」のページでは、ふるさと和歌山県のすばらしい景観や町並み、建造物、文化遺産などの写真を募集しています。

景観・まちづくりイベントの紹介

2013年2月16日(土) 13:30~16:10 (和歌山市)

連携公開講座2012 アジア新時代の和歌山の未来を考える
・第4回 活力あるふるさと地域づくり・まちづくりに向けて

主催：放送大学和歌山学習センター、和歌山県立図書館

基調講演 21世紀、和歌山の立ち位置は何かー個性再生のまちづくりー
和歌山大学経済学部副学部長、教授 足立基浩さん
パネル討論 足立基浩さん(コーディネーター)+3名

<開催場所> 県立図書館2階 講義・研修室

<申込・お問い合わせ先>

- ・ 放送大学和歌山学習センター (073-431-0360)
- ・ 和歌山県立図書館 文化情報センター (073-436-9530)

詳細は、下記主催者ホームページをご覧ください。

<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/wakayama/2012/11/008573.html>

詳細は、「みんなで作る情報板 わかやまイベントボード」をご覧ください。
<http://eventboard.shiminjuku.jp/> (NPO 法人市民のわかやま管理・運営)



「景観・まちづくり新聞」のバックナンバーは「きのくに風景讃歌」のサイトからダウンロードできます。

「きのくに風景讃歌」

<http://www.kinokuni-sanka.jp/>



NPO 法人 市民のわかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F
TEL/FAX 073-428-2688
URL <http://shimin.or.jp/>
e-mail info@shimin.or.jp
受付時間 月~金 9:30~16:30 ※土日祝休み

